

《履修モデル》

講座	2.人間・社会・思想講座		
学系	人間科学系		
関係・分野	人間形成論		
教員	教授：倉石 一郎（教育社会学） 教授：石岡 学（教育史）	教授：大倉 得史（発達心理学・関係発達論）	准教授：松本 卓也（精神病理学・精神分析学） 准教授：タジャン, ニコラ（精神病理学・精神分析学）
1・2回生	<全学共通科目> 教育学Ⅰ・Ⅱ 教育学基礎ゼミナール ジェンダー論基礎ゼミナール <学部科目> 基礎演習：教育・社会・国家 基礎演習：ジェンダー論	<全学共通科目> 心理学Ⅰ・Ⅱ 関係発達論Ⅱ 発達心理学基礎ゼミナール <学部科目> 心理学概論 心理学研究法 関係発達論Ⅰ（発達心理学） 基礎演習：発達心理学 心理学実験*1	<全学共通科目> 精神病理学Ⅰ 精神分析学 行動病理学Ⅰ・Ⅱ 精神病理学・精神分析学講読演習*2 Psychopathology I-E2 Psychoanalysis-E2 <学部科目> 基礎演習：現代思想と精神分析 基礎演習：Frontiers in psychopathology（精神病理学のフロンティア） 精神病理学Ⅱ（精神疾患とその治療）
	*1 この科目は2回生から履修できます。 *2 この科目は他の精神病理学・精神分析学関連の科目の既履修または並行履修が条件となります。		
3回生	<学部科目> 人間形成論演習A・B（重複履修可） 人間形成史論演習A・B（重複履修可） 人間形成論*3 人間形成史論	<学部科目> 関係発達論の応用*4 関係発達論演習A・B（重複履修可） 心理演習	<学部科目> 精神病理学・精神分析学演習A・B（重複履修可） 精神病理学・精神分析学（障害者・障害児心理学） 学部特殊講義ⅠB（総合人間学としての精神分析）*3 精神分析Ⅰ・Ⅱ*5 Psychoanalysis II-E2*5 心理的アセスメント
	*3 この科目は2回生から履修できます。 *4 この科目は2回生から履修できますが、他の関係発達論関連の科目の既履修または並行履修が条件となります。 *5 この科目は1回生から履修できます。		
4回生	<学部科目> 人間形成論演習A・B（重複履修可） 人間形成史論演習A・B（重複履修可）	<学部科目> 関係発達論演習A・B（重複履修可） 心理演習	<学部科目> 精神病理学・精神分析学演習A・B（重複履修可） 精神病理学・精神分析学（障害者・障害児心理学）
★他学部科目に関してはR5年度以前入学者は16単位、R6年度以降入学者は22単位まで主専攻科目として認定されますので、教育学部や文学部の便覧を 閲覧の上、履修してください。 ★卒論のテーマや読むべき文献、研究方法などに関して、教育社会学……倉石一郎、教育史……石岡学、発達心理学・関係発達論……大倉得史、精神病理学・精神分析学……松本卓也が、それぞれ個別に相談に応じます。 ★発達心理学・関係発達論関連の科目、精神病理学・精神分析学関連の科目の中には、公認心理師受験資格取得のために必要となる科目があります。公認心理師資格取得を目指す学生は、各種の案内等に注意して情報を収集してください。			

《履修モデル》

講座	2.人間・社会・思想講座	
学系	人間科学系	
関係・分野	社会行動論	
教員	教授：吉田 純（社会学） 教授：柴田 悠（社会学）	教授：永田 素彦 （社会心理学、グループ・ダイナミックス）
1回生	<全学共通科目> 社会学Ⅰ・Ⅱ／社会学各論Ⅰ・Ⅱ／社会学基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ <学部科目> 基礎演習：社会学Ⅰ・Ⅱ	<全学共通科目> 心理学Ⅰ・Ⅱ／社会心理学基礎ゼミナール <学部科目> 社会心理学（社会・集団・家族心理学）／グループ・ダイナミックス（産業・組織心理学）／心理学概論／心理学研究法／基礎演習：社会心理学
	<全学共通科目>宗教学各論（死生学）Ⅰ・Ⅱ 上記のほか、人間科学の様々な分野を幅広く学んでください。	
2回生	<全学共通科目・学部科目> 上記1回生時の推奨科目すべて <学部科目> 社会調査のための統計学	<全学共通科目・学部科目> 上記1回生時の推奨科目すべて <学部科目> 心理学実験
	<全学共通科目>神話論Ⅰ・Ⅱ 上記のほか、1回生時にひきつづき、人間科学の様々な分野を幅広く学んでください。 文学部・教育学部の社会学・心理学関係科目（2回生配当）も履修を推奨します。	
3回生	<学部科目> 人間行動論 社会情報論 人間行動論演習A・B 社会情報論演習A・B	<学部科目> 社会心理学演習A・B 心理学実験
	卒業論文の方向性を意識しつつ、社会行動論関係のより専門的な研究に取り組んでください。とくに、人間行動論演習A・B／社会情報論演習A・B／社会心理学演習A・Bのうち、少なくとも1つを通年で履修することを強く推奨します（これらの演習の担当教員の中から、指導教員を選んでください）。 文学部・教育学部の社会学・心理学関係科目（3回生配当）も履修を推奨します。	
4回生	<学部科目> 人間行動論演習A・B 社会情報論演習A・B ※3回生時に人間行動論演習A・Bを履修した学生は、4回生時には社会情報論演習A・Bを履修してください（またはその逆）	<学部科目> 卒論・大学院ゼミ （社会心理学演習A・B）
	3回生時からひきつづき、指導教員が担当する演習科目を履修しながら、卒業論文の作成に取り組んでください。	
社会行動論関係（社会学、社会心理学、グループ・ダイナミックス）は、人間社会のあらゆる事象にかかわりを持つ、非常に守備範囲の広い学問分野です。最初の1～2回生時は、あまり狭い専門性にとらわれず、人間科学や社会科学の幅広い分野を学びながら、「自分にとって何が本当に重要な問題なのか」を探そうにしてください。 なお、3回生時の指導教員決定にあたっては、1～2回生時の履修科目や成績によって可否を判定する場合があります。詳しくは、各教員の「教員プロフィール」を参照してください。 3回生は、1～2回生時の蓄積をもとに、自分の問題関心を明確化し、卒業論文の方向性を定める重要な時期です。7月までに指導教員を決め、その教員が担当する演習科目で発表したり討論に参加しながら、問題関心を追求してください。 4回生では、3回生時からひきつづき、指導教員が担当する演習科目で卒業論文の計画を発表し、討論に参加し、また先輩の院生からのアドバイスなども参考にしながら、卒業論文を完成させてください。		

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座			
学系	人間科学系			
関係	文化社会論			
分野	動態映画文化論	制度・生活文化史	音楽文化論	メディア・スタディーズ
教員	教 授：木下 千花 准教授：仁井田 千絵	教授：菅 利恵	准教授：上田 泰史	非常勤講師
1～2回生	動態映画文化論	制度・生活文化史	音楽文化論講義 音楽文化論実習（非常勤講師）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	1－2回生では、全学共通科目から、現代の社会や文化、さらには哲学・芸術・文学・思想・歴史・国際関係に関する授業を幅広く履修し、知識の地平を拡げておくことが望ましい。そのなかで思考の訓練を積み、自分の興味や問題意識がどこにあるかを探り、自らの視点を養ってほしい。語学力も磨いておくこと。			
3回生	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ 動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	音楽文化論講義 音楽文化論演習 音楽文化論実習（非常勤講師）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	3回生では、自らの関心対象、テーマに焦点を絞って学部科目を履修することを勧める。卒論のテーマを複数挙げ、どれがよいかしっかり考えること。各教員が個別に相談に応じる。			
4回生	動態映画文化論Ⅰ、Ⅱ 動態映画文化論演習Ⅰ、Ⅱ	制度・生活文化史 制度・生活文化史演習	音楽文化論講義 音楽文化論演習 音楽文化論実習（非常勤）	メディア・スタディーズ（非常勤講師） メディア文化学（非常勤講師）
	卒論のテーマ、読むべき文献、調査・研究方法などに関しては、動態映画文化論は木下 千花・仁井田 千絵、制度・生活文化史は菅 利恵、音楽文化論は上田泰史が、それぞれ個別に相談に応じる。			
文化社会論では、社会的・歴史的な制度や文脈との関係を重視しつつ、文学、思想、芸術のテキストを分析する人文学の研究を行っています。 ＊専門科目は重複履修可能です。ただし、メディア文化学(特殊講義)を除く。 ＊重複履修可能とは、必ず複数回履修しなければならないという意味ではありません。				

《履修モデル》

講座	2.人間・社会・思想講座
学系	人間科学系
関係・分野	人間存在論
教員	教授：佐藤 義之（フランス哲学・倫理学）、安部 浩（ドイツ哲学・環境倫理）、戸田 剛文（英米哲学・イギリス経験論）、青山 拓央（英米哲学・分析哲学）
1回生	＜全学共通科目＞ 哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、倫理学Ⅰ・Ⅱ、科学論Ⅰ・Ⅱ ＜学部科目＞ 基礎演習：哲学、哲学基礎ゼミナール、基礎演習：西洋思想史、西洋思想史基礎ゼミナール 哲学に限らず、幅広い分野の授業を取っておくのがいいかと思います。ドイツ語またはフランス語のどちらかはしっかりとやっておいてください。 （関係共通の推奨科目）西洋社会思想史、宗教学、ラテン語、ギリシャ語など
2回生	＜学部科目＞ 人間実践論Ⅰ・Ⅱ、自己存在論Ⅰ・Ⅱ、哲学・文化史Ⅰ・Ⅱ、認識人間学Ⅰ・Ⅱ 特に必修科目があるわけではないですが、授業などで出てきた哲学者の原典をなるべく時間を見つけて読むようにしましょう。ドイツ語またはフランス語の学習も引き続き行ってください。 （関係共通の推奨科目）西洋社会思想史、宗教学、ラテン語、ギリシャ語など
3回生	＜学部科目＞ 自己存在論演習Ⅰ・Ⅱ、人間実践論演習Ⅰ・Ⅱ、認識人間学演習Ⅰ・Ⅱ、哲学・文化史演習Ⅰ・Ⅱ 上記の1～3回生の欄に列挙した科目などでまだとっていないものはとっておくのもよいでしょう（習得していない言語を使う授業は除く）。特に必修科目があるわけではないですが、授業などで出てきた哲学者の原典をなるべく時間を見つけて読むようにしましょう。そろそろ卒業論文で扱う哲学者の候補を絞っていきましょう。
4回生	＜学部科目＞ 自己存在論演習Ⅰ・Ⅱ、人間実践論演習Ⅰ・Ⅱ、認識人間学演習Ⅰ・Ⅱ、哲学・文化史演習Ⅰ・Ⅱ 人間存在論特別演習（卒論中間発表） 人間存在論特別演習で卒業論文の中間発表、検討を行います。演習などで関心のある授業は、一年限りでなく繰り返し履修しておくのもいいかもしれません（重複履修可能な科目のみ）。卒業論文で選んだ哲学者の著作と格闘しましょう。
1、2回生のうちに、理系・文系問わず、幅広くいろいろな科目をとってみるのもいいかもしれません。 語学はしっかりとやっておいてください。上述したドイツ語またはフランス語のほかに、古典語（ラテン語またはギリシャ語）も可能なら学習してほしいと思います（古典語は全学共通科目の外国語科目群でなく、人文・社会科目群で開講されています）。 講義で取り上げられた哲学者で興味のある人が出てきたら、なるべく原典を読むようにしましょう。すこしずつ原語で読む訓練をしておくといいかと思います。	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座
学系	人間科学系
関係・分野	創造行為論
教員	教授：栗山 智成（英米演劇） 准教授：武田 宙也（美学） 准教授：田口かおり（美術史）
1回生	＜全学共通科目＞ 芸術学Ⅰ・Ⅱ ＜学部科目＞ 基礎演習：美の思想／基礎演習：西洋美術の歴史 「創造行為論関係」の基礎科目をひろくとること。 「創造行為論関係」の基礎演習、「基礎演習：美の思想」「基礎演習：西洋美術の歴史」をとること。 語学については、英語のほかに少なくとももうひとつの外国語を履修すること。
2回生	＜全学共通科目＞ 外国文献研究 E1／創造行為総論A／創造行為総論B／創造ルネッサンス論A／創造ルネッサンス論B ＜学部科目＞ 舞台芸術論A・B／創造行為論講読演習／創造ルネッサンス論基礎ゼミナール 「創造行為論関係」の2回生以上配当の授業科目をとること。 「創造行為論講読演習」「創造ルネッサンス論基礎ゼミナール」を履修すること。 読解力のつく語学の授業を履修する。 1回生で未履修の場合は、基礎演習をとること。
3回生	＜学部科目＞ 舞台芸術論演習A・B／創造行為論演習A・B／創造ルネッサンス論演習A・B 「創造行為論関係」の3回生以上配当の演習科目をとり、卒論に向けて徐々に準備を始める。
4回生	＜学部科目＞ 舞台芸術論演習A・B／創造行為論演習A・B／創造ルネッサンス論演習A・B 引き続き、演習科目をとって、卒論の指導を受ける（なお、演習科目は重複可なので、単位はカウントされる。）
創造行為論分野では、美や芸術の思想、理論、歴史を学びます。といっても、ジャンルや時代、地域が非常に多岐にわたります。たとえば、ジャンルとしては、哲学的な美学、美術史、演劇、音楽、建築、デザインやファッションなどがあります。 「創造行為論関係」の科目に限らず、皆さんのそれぞれの関心や興味に応じて、出来るだけひろく選択してください（「自由科目」として文学部等の科目を履修することも可能です）。第二外国語として、できれば2ヶ国語（ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語などから）を履修することが望ましいです。また、基礎演習などを通じて、教員に積極的にアプローチすることを勧めます。副専攻については、各人の興味に応じて選択してください。	

《履修モデル》

講座	3.芸術文化講座		
学系	人間科学系		
関係・分野	文芸表象論（英米文芸表象論）	文芸表象論（ドイツ文芸表象論）	文芸表象論（イタリア文芸表象論）
教員	教授：小島 基洋（イギリス文学） 教授：吉田 恭子（アメリカ文学）	准教授：須藤 秀平（ドイツ文学）	准教授：霜田洋祐（イタリア文学）
1～2回生	＜全学共通科目＞ E1科目（外国文献研究） ＜学部科目＞ 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読IA・B 英米文芸表象論講読IIA・B	＜学部科目＞ ドイツ文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論講読A・B	＜全学共通科目＞ イタリア語などのロマンス諸語 イタリア語II ＜学部科目＞ 英米文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論講義A・B
	着実な語学力を鍛えるために、1回生から履修可能な講読クラスなど、学部科目に積極的に参加することを勧めます。講読IA・Bと講読IIA・Bは、どちらか一方を履修しても、両方を履修してもかまいません。全学共通科目「E1科目」（2回生時履修）のなかには、英米文芸表象論所属教員の担当授業を含め、英米文学に関連する授業もありますので、興味があれば履修してください。	1回生ではドイツ文芸表象論に直結する科目はありません。広く欧米の文化や思想などから関連科目を履修してください。2回生からは講義と講読が始まるので、積極的にそれらを履修してください。また、他の学系（関係）の科目、特にドイツ語圏の文化や思想をテーマとする、制度・生活文化史A・B、文明構造論III、IVA・Bなどを履修するのもいいでしょう。	1回生のうちはさまざまな外国語、特にイタリア語をはじめとするロマンス諸語を学んでください。また、広く欧米の文学・思想・芸術に関連する科目を履修することを強く勧めます。2回生からは、これに加えて、イタリア語II（講読）や文学部のイタリア語学イタリア文学の講読の授業を履修してください。外国語文献をじっくり読み込むことに慣れていきましょう。
	全学共通科目では、幅広く文学・思想・歴史・国際関係などに関する授業を履修してください。視野を広げると同時に、今後の自らのテーマを決める上で役に立ちます。また、専門に關係する／分野に関連する言語の語学力をしっかりと身につけましょう。		
3回生	＜学部科目＞ 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読IA・B 英米文芸表象論講読IIA・B 英米文芸表象論演習IA・B	＜学部科目＞ ドイツ文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論演習A・B ドイツ文芸表象論講読A・B	＜学部科目＞ 言語芸術論講義 イタリア言語文化論演習I・II
	講義および講読クラスは、1～2回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修することを勧めます。	ドイツ文芸表象論の演習A・Bは3回生から履修可能なので、できるだけ3回生から履修してください。また講義や演習で今まで履修できなかった科目も履修してください。	3回生からはイタリア文芸表象論に直結する科目が始まるので、それらを積極的に履修してください。また、未履修の講読科目や文学部の関連科目も履修してください。
	3回生では、卒論に備えてください。自分の興味のあるテーマに関連した科目だけでなく、卒論研究に資すると思われる科目を履修することを勧めます。卒論のテーマをいくつか挙げながら、徐々に焦点を絞ってゆくと。各教員が個別に相談に応じます。		
4回生	＜学部科目＞ 英米文芸表象論講義A・B 英米文芸表象論講読IA・B 英米文芸表象論講読IIA・B 英米文芸表象論演習IA・B 英米文芸表象論演習IIA・B	＜学部科目＞ ドイツ文芸表象論講義A・B ドイツ文芸表象論演習A・B ドイツ文芸表象論講読A・B	＜学部科目＞ 言語芸術論講義 イタリア言語文化論演習I・II
	講義・講読クラスは、1～3回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修することを勧めます。「英米文芸表象論演習IIA・B」は、指導教員の開講科目を履修することが必修です。	ドイツ文芸表象論の科目はすべて再履修可能（毎年違うテーマと内容）なので、興味のある科目を再履修してください。特に演習は卒論に関する相談の場にもなるので、できるだけ履修してください。	講義・演習は、3回生時に履修した場合も重複が可能なので、意欲的に履修してください。特に演習は、テキスト精読の訓練となるだけでなく卒論相談の機会ともなるので、できるだけ履修してください。
	卒論のテーマ、調査・研究方法、および論文の作成方法などについては、英米文芸表象論では吉田恭子・小島基洋（英米文学）が、ドイツ文芸表象論では須藤秀平（ドイツ文学）が、イタリア文芸表象論では霜田洋祐（イタリア文学）がそれぞれ個別に応じます。9月末頃には、卒論中間発表会を予定しています。		
文学作品を読むこと、つまり、物語をとおして私たちを取り巻く諸問題について具体的にかつ深く考察することは、人間としての基本的な力を培ううえで非常に重要です。本格的に作品を読むのには、やはり原書に勝るものではありません。そのためには、語学修練も必要になります。学生時代に文学作品を読む経験を積んで、文学の面白さを知ってほしいと思います。卒業論文に取り組むにあたっては、自分の興味のある作家・作品を決めて、テーマを絞ってゆってください。			